

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成20年2月14日(2008.2.14)

【公開番号】特開2006-170308(P2006-170308A)

【公開日】平成18年6月29日(2006.6.29)

【年通号数】公開・登録公報2006-025

【出願番号】特願2004-362873(P2004-362873)

【国際特許分類】

F 1 6 C 41/00 (2006.01)

G 0 1 P 3/487 (2006.01)

G 0 1 D 5/245 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 41/00

G 0 1 P 3/487 F

G 0 1 P 3/487 Z

G 0 1 D 5/245 V

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月17日(2007.12.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外方部材と、内方部材と、前記外方部材と前記内方部材との間で周方向に転動自在に配設された複数の転動体と、プラスチック磁石材料からなり円周方向に多極着磁された磁石部とスリングとを一体化してなり、前記内方部材に固定される磁気エンコーダとを備える車輪用転がり軸受ユニットであって、

前記磁石部が、熱可塑性樹脂バインダと全量に対し 86 ~ 92 質量%の磁性体粉とを含有するプラスチック磁石材料を前記スリングにインサート成形してなり、かつ、該インサート成形と同時に硬化反応が進行する接着剤により前記スリングと化学的に接合されていることを特徴とする車輪用転がり軸受ユニット。

【請求項 2】

前記内方部材に駆動軸が嵌合され、かつ、前記スリングが、Cr を 16 ~ 20 質量%、Mo を 0.4 ~ 2.5 質量%含有する耐食性フェライト系ステンレスからなることを特徴とする請求項 1 記載の車輪用転がり軸受ユニット。

【請求項 3】

前記スリングの少なくとも前記磁石部との接合面が、化成処理または化学エッチング処理されていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の車輪用転がり軸受ユニット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

上記の目的を達成するために、本発明は以下の車輪用転がり軸受ユニットを提供する。

(1) 外方部材と、内方部材と、前記外方部材と前記内方部材との間で周方向に転動自在

に配設された複数の転動体と、プラスチック磁石材料からなり円周方向に多極着磁された磁石部とスリングとを一体化してなり、前記内方部材に固定される磁気エンコーダとを備える車輪用転がり軸受ユニットであって、

前記磁石部が、熱可塑性樹脂バインダと全量に対し 86 ~ 92 質量%の磁性体粉とを含有するプラスチック磁石材料を前記スリングにインサート成形してなり、かつ、該インサート成形と同時に硬化反応が進行する接着剤により前記スリングと化学的に接合されていることを特徴とする車輪用転がり軸受ユニット。

(2) 前記内方部材に駆動軸が嵌合され、かつ、前記スリングが、Cr を 16 ~ 20 質量%、Mo を 0.4 ~ 2.5 質量%含有する耐食性フェライト系ステンレスからなることを特徴とする上記(1)記載の車輪用転がり軸受ユニット。

(3) 前記スリングの少なくとも前記磁石部との接合面が、化成処理または化学エッチング処理されていることを特徴とする上記(1)または(2)記載の車輪用転がり軸受ユニット。